

2 専門基礎分野



授業科目名 解剖生理学 I (基礎知識・消化器・運動器)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
---------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護学の観点から、健康な人間を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合し学ぶ。解剖生理学の基礎知識と消化器、骨格・筋の構造と機能を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 人体に備わる器官の構造と機能について知り、それらが一体となって人体を維持する活動を理解できる。</p> <p>2) 人体を構成するための材料や、生命維持や活動の源となる栄養の消化と吸収に關与する消化器系の構造と機能を理解できる。</p> <p>3) 人間らしい日常生活を営む活動について、身体を形づくり、保持する骨格とそれらを動かすための筋肉の構造と機能を理解できる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	解剖生理学とは	講義	
2	消化器系 食欲・食行動・咀嚼（口腔） 嚥下（咽頭・食道） 消化（胃） 消化吸収（肝臓） 消化吸収（胆嚢・肝臓・膵臓） 消化吸収（小腸） 消化吸収（大腸）、便意・排便行動	講義	
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 解剖生理学Ⅱ (呼吸器・循環器・電解質)	第一看護学科 1年次 前期 1単位(30時間)
-------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護学の観点から、健康な人間を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合し学ぶ。循環器、呼吸器の構造と機能、体液の調節について理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 人体を構成する細胞の生命を支える、血液による輸送システムを担う循環器系の構造と機能を理解できる。</p> <p>2) 人間の生命維持や日常生活の活動のために不可欠な呼吸器の構造と機能を理解できる。</p> <p>3) 細胞の生命維持に不可欠な体液が、人体の内部環境の調整に働くしくみを理解できる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	呼 吸 器 系	呼吸器系とは 上気道	講義	
2		下気道		
3		肺 胸膜・縦隔		
4		呼吸運動		
5		呼吸気量		
6		ガス交換とガスの運搬 呼吸運動の調節		
7	電解質 /体温	体温調節機能 体液・電解質	講義	
8		酸塩基平衡		
9	循 環 器 系	肺循環・体循環・心臓の機能と構造	講義	
10		心臓の機能（冠状動脈）		
11		心臓の機能（刺激伝導系）		
12		心臓の機能（心拍出量・心周期・心音）		
13		血管の構造と機能（末梢循環系）		
14		血管の機能（血液の循環調節）		
15		血管の機能（リンパ系）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 解剖生理学Ⅲ (血液・腎・泌尿器・生殖器・内分泌)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護学の観点から、健康な人間を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合し学ぶ。血液・造血器の組成や腎・泌尿器、生殖器、内分泌器官の構造や機能を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 人体の生命活動を維持するための物質の輸送を担う血液の組成と機能と血液を産生する造血器の機能を理解できる。</p> <p>2) 人体の構成成分の半分以上を占める体液のバランスの調節を担う腎・泌尿器の構造と機能を理解できる。</p> <p>3) 次世代の個体を生み出して、種を維持する役目を担う生殖器の構造と機能を理解できる。</p> <p>4) 生体内外の環境の変化に応じて様々な臓器の機能状態を変化させる働きを持つ内分泌器官の構造と調節機能を理解できる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	血液	血球の組成と機能・赤血球	講義	
2		白血球・血小板		
3		血漿タンパク質と赤血球沈降速度 血液の凝固と線維素溶解		
4		血液型 生体防御機構		
5	腎臓	腎臓の構造と機能	講義	
6		腎臓の機能と酸塩基平衡		
7	泌尿器	泌尿器の構造と機能	講義	
8		男性生殖器の構造と機能		
9	生殖器	女性生殖器の構造と機能	講義	
10				
11	内分泌	内分泌とホルモン ホルモン分泌の調節	講義	
12		視床下部ー下垂体系のホルモン、性ホルモン		
13		甲状腺・副甲状腺のホルモン カルシウム代謝の調節		
14		膵臓のホルモンと糖代謝の調節 副腎のホルモン		
15		その他の内分泌腺の名称とホルモン ストレスとホルモン、		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 解剖生理学Ⅳ (脳神経・感覚器)	第一看護学科 1年次 前期 1単位 (30時間)
---------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護学の観点から、健康な人間を、人体の構造（解剖学）と機能（生理学）の側面から理解する。また、重複をなくすために、構造と機能は統合し学ぶ。脳・神経、感覚器の構造と機能を理解する。</p> <p>目 標</p> <p>1) 身体各部の受容器から送られた情報の伝達経路や情報処理を行う脳・神経の構造と機能を理解できる。</p> <p>2) 生体内外の環境変化を察知しうる情報の検出を行う感覚器の構造と機能を理解できる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	神経系の構造と機能	講義	
2	脊髄と脳		
3	大脳と脳室、髄膜について		
4	脊髄神経と脳神経		
5	脳の高次機能 脳波と睡眠		
6	大脳辺縁系 記憶		
7	中枢神経系の障害		
8	運動機能と下行伝導路		
9	感覚器とは、感覚機能と上行伝導路	講義	
10・11	視覚		
12・13	聴覚と平衡覚		
14	嗅覚、味覚		
15	皮膚感覚		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 解剖生理学V (人体形態機能理解演習)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
---------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>解剖生理学 I~IVの器官系統別とは異なる切り口として人間を統合体として捉え、「人体をめぐるもの」により人体形態機能を学ぶ。演習を通して、学生の主体的学習により学びを深め看護実践の基盤とする。</p> <p>目 標</p> <p>1) 解剖生理学で既習した知識を活用し、人間の生命維持活動をつかさどる器官と統一体としての機能を生活者の視点から表現することができる。</p> <p>2) 人体周囲を取り巻く外部環境の変化に対応するホメオスタシスの実現について、具体的な環境変化を想定した器官の働きの調整を論理的に表現することができる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	<p>本講義の概要説明</p> <p>解剖生理学の知識を看護学の理解に活用するために。</p> <p>人の生活行動からテーマを見つけ、既習した人体の形態と機能との関連を考える。</p> <p><<テーマとなりうるもの>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べる ・活動(運動) ・休息(睡眠) ・排泄 ・衣生活 ・入浴(皮膚の清潔) ・他者との交流(コミュニケーション) など 	講義・演習	
2	9	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。①	
		・学習内容の検討と学習計画の立案	
3	10	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。②	
		・生活行動の源となる認知領域の理解	
4	11	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。③	
		・生活行動を実現するための人体の機能を理解する。	
5	12	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。④	
		・生命維持又は恒常性維持のための体内環境の変化を理解(その1)	
6	13	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。⑤	
		・生命維持又は恒常性維持のための体内環境の変化を理解(その2)	
7	14	人の生命維持活動と生活行動の関連を考える。⑥	
		・まとめ、発表準備	
8	15	プレゼンテーション(発表)	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

レポート、提出物、参加状況 等

授業科目名 生化学	第一看護学科 1年次 前期 1単位（30時間）
-----------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>人体の構成成分である化学物質の性状、その分布および代謝について学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 人体を構成するための材料や生命維持や活動の源となる栄養素を人体に取り込む過程を理解できる。</p> <p>2) 体内で行われる代謝の働きについて知り、そこで取り扱われる物質と化学反応の性質を理解できる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備 考
1	生化学を学ぶための基礎知識	講義	
2	代謝の基礎、酵素と補酵素、ビタミン		
3	糖質の構造と機能、糖代謝（1）		
4	糖質代謝（2）		
5	脂質代謝（1） 脂質の構造と機能		
6	脂質代謝（2）		
7	タンパク質の構造と機能、タンパク質代謝（1）		
8	タンパク質代謝（2）、ポリフィン代謝と異物代謝		
9	遺伝子と核酸		
10	遺伝子の複製・修復・組換え		
11	DNAの転写		
12	翻訳と翻訳後修飾		
13	シグナル伝達		
14	生体物質・酵素・遺伝情報と発現		
15	さまざまな代謝（まとめ）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 栄養学	第一看護学科 1年次 前期 1単位（15時間）
-----------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい 栄養状態の査定の知識を学び、食事療法の基本を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 生体が発育・成長して生命を維持し、健全な生命活動を営むために、体外から取り入れるべき栄養素の種類と働きを理解できる。</p> <p>2) 必要な栄養素が不足することでおこる生体への影響を知り、食生活にかかわる問題解決に取り組む手段を考えることができる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	人間栄養学と看護	講義	
2	栄養素の種類と働き		
3	栄養素の消化と吸収 体内代謝		
4	体内エネルギーバランス 食事と食品		
5	栄養ケア・マネジメント、栄養状態の評価・判定		
6	ライフステージと栄養		
7	臨床栄養 健康づくりと食生活		
8	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 薬理学

第一看護学科

1年次 後期

1単位（15時間）

I. 授業のねらい・目標

ねらい

薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物管理について学ぶ。

目 標

- 1) 薬物療法で用いる薬物の特徴や薬物動態について知り、その効果に影響する生体及び個人的因子とその反応を理解できる。
- 2) 生体各器官に特異的に効果を発揮する薬物について、それぞれの作用機序とその効果について理解できる。
- 3) 薬物の取扱いについて、法的根拠と薬物の特性に応じた管理方法について理解できる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	薬理学総論 1 (薬と法律、薬物療法における看護師の役割、看護業務に必要な薬の知識)	講義	
2	薬理学総論 2 (薬力学・薬物動態学・薬物相互作用)		
3	抗感染症薬・抗がん薬		
4	免疫治療薬・抗アレルギー薬・抗炎症薬		
5	中枢神経系、末梢神経系に作用する薬物		
6	循環器・呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物		
7	物質代謝に作用する薬物・皮膚科用薬・眼科用薬		
8	救急の際に使用される薬物 (45分)		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3]薬理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 臨床薬理学	第一看護学科 3年次 前期 1単位（15時間）
-------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい 薬物療法の実際を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 疾患に対する薬物治療による生体への影響を知り、患者の準備や予測できる反応に対する対応を考えることができる。</p> <p>2) 薬物療法における与薬の援助を行う看護師の役割として、個々の患者に応じた薬物投与の方法や副反応への予測と対応を考えることができる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	薬物による病気の治療	講義	
2	中枢神経系薬剤		
3	抗がん剤		
4	循環器治療薬		
5	感染症		
6	糖尿病について		
7	消化器治療薬（胃潰瘍）		
8	脂質異常症の治療薬（45分）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 病理学	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
-----------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>病因と病変の特徴について学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 病気によってもたらされる生体の器官・組織・細胞の特徴的な変化を知り、病気の原因や成り立ち、発生機序を理解できる。</p> <p>2) 主な疾患による生体の特徴的な変化を知り、病態や治療の科学的根拠を理解できる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	病理学概論	講義	
2	細胞・組織の損傷と修復、炎症		
3	免疫と免疫不全		
4	アレルギー疾患と再生医療炎症と免疫		
5	感染症		
6	循環障害		
7	代謝障害		
8	老化と死		
9	先天異常と遺伝性疾患		
10	先天異常と遺伝性疾患		
11	腫瘍 (1)		
12	腫瘍 (2)		
13	腫瘍 (3)		
14	腫瘍 (4)		
15	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 微生物学	第一看護学科 1年次 前期 1単位（15時間）
------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 地球上に存在している微生物の種類や特徴を知り、自然界において微生物と他の生物との関係性について考えることができる。</p> <p>2) ヒトに病気を起こす病原微生物の種類とそのメカニズムを知り、感染症の診断や治療、予防法を理解できる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	微生物学総論、細菌学アウトライン	講義	
2	感染と感染症		
3	免疫		
4	滅菌と消毒、化学療法		
5	細菌学各論（感染症の現状と対策・グラム陽性菌）		
6	細菌学各論（グラム陰性菌）		
7	細菌学各論（ウイルス）		
8	細菌学各論（肝炎ウイルス・真菌・原虫）（45分）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 疾患のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 診断治療学 I (消化器・運動器)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
--------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 消化器系、骨・筋系の主な疾患の病態、治療、検査及び処置について学ぶ。
目 標
1) 主な消化器疾患、運動器疾患について、疾患の原因・誘因や病態とその経過を理解できる。
2) 主な消化器疾患、運動器疾患について、治療や検査及び処置の目的や方法を理解できる。
3) 消化器疾患や運動器疾患への最近の医療の動向を知り、患者への身体的・心理的・社会的影響を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	消化器系の構造と機能	講義	
2	消化機能障害の症状と病態生理		
3	消化器 診察と検査		
4	消化器 治療		
5	食道・胃・腸の疾患 (炎症性疾患、潰瘍性疾患、腫瘍、イレウス、排便障害)		
6	腹壁・腹膜疾患 (ヘルニア、腹膜炎)		
7	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 (炎症性疾患、肝硬変、腫瘍)		
8	肝臓・胆嚢・膵臓の疾患 (脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症)		
9	運動機能障害の症状と病態生理	講義	
10	診断・検査と治療・処置		
11	疾患の理解① — 骨折 骨粗鬆症 他		
12	疾患の理解② — 変形性関節症 他		
13	疾患の理解③ — 上下肢の疾患 他		
14	疾患の理解④ — 腰椎症 他		
15	感染症 感染症の病態、検査、治療	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院
系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [11] 感染症 医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 診断治療学Ⅱ (呼吸器・循環器・膠原病)	第一看護学科 1年次 後期 1単位(30時間)
-------------------------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

循環器系、呼吸器系、膠原病・難病・アレルギーの主な疾患の病態、治療、検査及び処置について学ぶ。

目 標

- 1) 主な循環器疾患、呼吸器疾患、膠原病・難病・アレルギー疾患について、疾患の原因・誘因や病態とその経過を理解できる。
- 2) 主な循環器疾患、呼吸器疾患、膠原病・難病・アレルギー疾患について、治療や検査及び処置の目的や方法を理解できる。
- 3) 循環器疾患や呼吸器疾患、膠原病・難病・アレルギー疾患の最近の医療の動向を知り、患者への身体的・心理的・社会的影響を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備考
1	循 環 器	循環機能障害の症状と病態生理、検査	講義	
2		心不全		
3		不整脈		
4		弁膜症、先天性心疾患		
5		高血圧、動脈硬化		
6		虚血性心疾患		
7	呼 吸 器	呼吸器学総論	講義	
8		呼吸器感染症、喘息		
9		慢性閉塞性肺疾患 (COPD)		
10		肺循環疾患		
11		肺腫瘍		
12		その他の呼吸器疾患		
13	膠 原 病 ・ 難 病	膠原病総論	講義	
14		膠原病各論		
15	アレルギー	免疫・アレルギー総論・各論	講義	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [3] 循環器	医学書院
系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [2] 呼吸器	医学書院
系統看護学講座 専門分野	成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症	医学書院
系統看護学講座 専門基礎分野	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 診断治療学Ⅲ (血液・腎・泌尿器・生殖器・内分泌)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
------------------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい 血液、腎・泌尿器系、生殖器・内分泌系の主な疾患の病態、治療、検査及び処置について学ぶ。
目 標 1) 主な血液、腎・泌尿器系、生殖器・内分泌系の疾患について、疾患の原因・誘因や病態とその経過を理解できる。 2) 主な血液、腎・泌尿器系、生殖器・内分泌系の疾患について、治療や検査及び処置の目的や方法を理解できる。 3) 血液、腎・泌尿器系、生殖器・内分泌系の疾患の最近の医療の動向を知り、患者への身体的・心理的・社会的影響を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考	
1	内 分 泌	講義		
2				内分泌器官の機能障害による症状と病態生理、検査
3				下垂体疾患
4				甲状腺・副甲状腺・副腎疾患
5				糖尿病
6	血 液	講義		
7				代謝疾患
8				血液の成分と機能
9				血液疾患による症候とその病態生理 (貧血、白血病、悪性リンパ腫)
10	腎・ 泌 尿 器	講義		
11				腎・泌尿器の構造と機能
12				排泄機能障害の症状とその病態生理、検査
13				尿路先天異常・感染症・尿路結石
14	女 性 生 殖 器	講義		
15				尿路・性器腫瘍
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
32				
33				
34				
35				
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72				
73				
74				
75				
76				
77				
78				
79				
80				
81				
82				
83				
84				
85				
86				
87				
88				
89				
90				
91				
92				
93				
94				
95				
96				
97				
98				
99				
100				
101				
102				
103				
104				
105				
106				
107				
108				
109				
110				
111				
112				
113				
114				
115				
116				
117				
118				
119				
120				
121				
122				
123				
124				
125				
126				
127				
128				
129				
130				
131				
132				
133				
134				
135				
136				
137				
138				
139				
140				
141				
142				
143				
144				
145				
146				
147				
148				
149				
150				
151				
152				
153				
154				
155				
156				
157				
158				
159				
160				
161				
162				
163				
164				
165				
166				
167				
168				
169				
170				
171				
172				
173				
174				
175				
176				
177				
178				
179				
180				
181				
182				
183				
184				
185				
186				
187				
188				
189				
190				
191				
192				
193				
194				
195				
196				
197				
198				
199				
200				

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [6]	内分泌・代謝	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [4]	血液・造血器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [8]	腎・泌尿器	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [9]	女性生殖器	医学書院
系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能 [1]	解剖生理学	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 診断治療学Ⅳ (脳神経・感覚器)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
---------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

ねらい

脳神経系、感覚器系の主な疾患の病態、治療、検査及び処置について学ぶ。

目 標

- 1) 主な脳神経系、感覚器系の疾患について、疾患の原因・誘因や病態とその経過を理解できる。
- 2) 脳神経系、感覚器系の疾患について、治療や検査及び処置の目的や方法を理解できる。
- 3) 脳神経系、感覚器系の疾患の最近の医療の動向を知り、患者への身体的・心理的・社会的影響を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容		講義・演習	備 考
1	脳 神 経	脳の解剖と機能	講義	
2		脳機能の異常と症状		
3		脳神経診察、検査、治療		
4		脳疾患		
5		脳疾患		
6		脊髄、末梢神経疾患		
7		感染症、中毒、てんかん		
8		神経筋疾患、変性疾患、認知症		
9	耳 鼻 咽 喉	症状とその病態生理、検査と治療	講義	
10		疾患の理解 (炎症性疾患、腫瘍)		
11		疾患の理解 (難聴、メニエール病、臭覚・味覚障害)		
12	眼	眼と付属器の症状とその病態生理、検査と治療	講義	
13		疾患の理解 (白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症)		
14	皮 膚	症状とその病態生理、検査と治療	講義	
15		疾患の理解 (湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬蜂窩織炎)		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [7] 脳・神経	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [12] 皮膚	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [13] 眼	医学書院
系統看護学講座	専門分野	成人看護学 [14] 耳鼻咽喉	医学書院
系統看護学講座	専門基礎分野	人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 診断治療学Ⅴ (放射線・リハビリ)	第一看護学科 1年次 後期 1単位 (30時間)
----------------------------	--------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>現代医療に必要不可欠な画像診断や放射線治療といった放射線医学や高齢化や障害を抱える人々の生活の質を高めるためのリハビリテーション医療の基礎的知識を学び、チーム医療における役割を理解する。</p> <p>目標</p> <p>1) 放射線医学の成り立ちと意義を知り、画像診断や放射線治療の種類やその方法を知ることができる。</p> <p>2) 放射線検査の種類とその方法、使用する薬剤の作用・副作用を理解して、患者が安全かつ正確な診断結果につながるよう支援する方法を学ぶことができる。</p> <p>3) 放射線治療の内容や想定される治療効果や合併症を学び、看護のあり方を学ぶことができる。</p> <p>4) リハビリテーションの概念を学び、看護のあり方を学ぶことができる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	放 射 線 医 学	放射線医学総論 (診断、I V R、治療)	講義
2		X線診断、C T	
3		M R I、U S	
4		放射線防護	
5		核医学	
6		血管造影、I V R	
7		放射線治療	
8	リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン	リハビリテーション概論	講義
9		循環器系の障害とリハビリテーション	
10		中枢神経系の障害とリハビリテーション	
11		呼吸器系の障害とリハビリテーション	
12		高齢者のリハビリテーション	演習
13		運動器系の障害とリハビリテーション (起居動作・関節可動域)	
14		摂食・嚥下のリハビリテーション	
15		口腔ケア・リハビリ・食事の援助	

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目 公衆衛生学	第一看護学科 3年次 後期 1単位（15時間）
------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>公衆衛生に関連する歴史や考え方とその裏付けとなる統計情報を学び、人々の健康を維持・増進させるための国や自治体、地域などの組織的な取り組みや保健活動のあり方を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 我が国の公衆衛生の歴史や自治体や地域の組織的な取り組みを学び、人々の健康を守る保健活動のあり方を学ぶことができる。</p> <p>2) 集団における健康問題を把握するための方法である疫学や保健統計の基礎とその活用方法を学ぶことができる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	日本における公衆衛生の取り組み、衛生統計	講義	
2	公衆衛生の理念・概念		
3	成人の健康づくり・難病・産業保健		
4	感染症・食中毒		
5	子どもと保健・学校保健・歯科保健		
6	高齢者保健・精神保健		
7	環境保健		
8	健康危機管理・まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

ナーシング グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 メディカ出版

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 社会福祉

第一看護学科
3年次 前期
1単位（30時間）

I. 授業のねらい・目標

ねらい

人々の生活を支える社会福祉と社会保障制度について理解し、地域に生活している人々の健康の維持・増進のための社会資源の活用と看護の役割を学ぶ。

目 標

- 1) 社会福祉や社会保障制度の歴史や意義を学び、時代が抱える課題解決に向けての取り組みの実際を学ぶことができる。
- 2) 社会福祉の仕組みや人々の生活と社会保障制度の活用の実際を知り、看護の役割を考えることができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備 考
1	社会保障の全体像の理解	講義	
2	社会保障制度の総論		
3	社会福祉の総論		
4	現代社会の変化の理解		
5	社会保険・社会福祉の動向		
6	医療保障制度の理解		
7	介護保障制度の理解		
8	社会保障の体系		
9	年金制度の理解		
10	社会手当の理解		
11	所得保障		
12	公的扶助		
13	社会福祉の分野とサービス		
14	社会福祉実践と医療・看護		
15	まとめ		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 関係法規	第一看護学科 3年次 後期 1単位（30時間）
------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>看護をめぐる法と制度を理解し、社会のしくみと看護師の役割及び法的責任を学ぶ。</p> <p>目 標</p> <p>1) 我が国の法体系の基礎を学び、看護をめぐる様々な法と制度を理解することができる。</p> <p>2) 看護実践と看護をめぐる法制度について学び、社会のしくみの中での看護師の役割を理解することができる。</p>

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備 考
1	法 の 概 念	講義	
2	医事法（1）・医療法		
3	医事法（2）・医療関係資格法 ・医療を支える法		
4	薬務法		
5	環境法		
6	労働法		
7	社会保険法（1）・医療保険法 ・国民健康保険法		
8	社会保険法（2）・高齢者の医療の確保に関する法律 ・介護保険法 ・年金（国民年金法、厚生年金保険法）		
9	福祉法（1）・福祉の基盤（社会福祉法・生活保護法 他） ・児童分野（児童福祉法 他）・高齢分野（老人福祉法 他）		
10	福祉法（2）・障害分野（障害者基本法 他）・手当		
11	保健衛生法（1）・共通保健法（地域保健法・健康増進法） ・分野別保健法（母子保健法・精神保健福祉法 他）		
12	保健衛生法（2）・感染症に関する法・食品に関する法及び 環境衛生法		
13	看護法 ・保健師助産師看護師法・看護師等の人材確保の 促進に関する法律		
14	医行為における看護師の責任①		
15	医行為における看護師の責任②		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 保健医療論	第一看護学科 1年次 前期 1単位（15時間）
-------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい</p> <p>現代の保健・医療・福祉の抱えている問題点とその背景を知り、専門職として幅広い視野を持ち、病と健康に関する多くの学問が相互につながっていることを理解し認識を深める。</p> <p>目 標</p> <p>1) 医療の歩みと医療観の変遷を知り、医療と看護の原点となる人々の命や病と健康の考え方を理解することができる。</p> <p>2) 人々の生活と健康をまもる保健・医療・福祉のあり方や現代医療の新たな課題を知り、看護師の役割を考えることができる。</p>
--

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備考
1	医療と看護の原点	講義	
2	医療の歩みと医療観の変遷		
3	私たちの生活と健康①医療体制・医療保険		
4	私たちの生活と健康②地域包括ケア、障害者ケア		
5	科学技術の進歩と現代医療の最前線		
6	現代医療の新たな課題		
7	医療を見つめなおす新しい視点		
8	保険・医療・介護・福祉の近未来像（45分）		

III. 使用テキスト・参考文献

系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等

授業科目名 医療安全論	第一看護学科 2年次 前期 2単位（30時間）
-------------	-------------------------------

I. 授業のねらい・目標

<p>ねらい 看護行為、医薬品、医療器具、患者に存在する危険を認識する能力を持つことの重要性を理解し、看護事故の発生要因を知り、防止策を学ぶ。また、演習を通して、学生の主体的学習により学びを深める。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ヒューマンエラーの定義と発生するメカニズムを理解し、事故防止の考え方を学ぶことができる。 2) 様々な看護業務に潜む医療事故を想定した防止対策を考え、演習を通して具体的な取り組みを実践することができる。

II. 授業計画

回	授 業 内 容	講義・演習	備 考
1	医療安全の概念①	講義	
2	医療安全の概念②		
3	医療安全の概念③		
4	医療事故と事故後の対応①		
5	医療事故と事故後の対応②		
6	事例から学ぶ手法① ヒヤリ・ハット体験の分析と共有化	講義・演習	
7	事例から学ぶ手法② ヒヤリ・ハット体験の分析と共有化		
8	看護・医療事故予防と看護実践① 危険の情報収集、危険因子の査定、 危険の予測・危険を予測した看護の実践 看護実践の評価		
9	看護・医療事故予防と看護実践② 危険の情報収集、危険因子の査定、 危険の予測・危険を予測した看護の実践 看護実践の評価		
10	リスクセンストレーニング		
11	医薬品と医療機器の知識		
12	成功体験①		
13	成功体験②		
14	看護に必要な計算		
15	実技演習：看護に必要な計算の実際		

III. 使用テキスト・参考文献

川村治子著 医療安全ワークブック 医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院
--

IV. 成績評価の方法

筆記試験、提出物 等
